

対象	問題（変えるべき現状）きっかけ、裏付け②（どんな情報を根拠にしているか）	目標（目指すべき理想）解決するところなる、なってほしい③	プロジェクト名	課題（現実と理想のギャップを埋める）やること④	当たはまる事業主となる事業に◎	年間での予定（ざっくりしたものでOK、変更あってもOK）				
朝霧中学校区	・住民が認知症当事者の思いを聞く機会がなく、認知症に対しネガティブな印象を持ちやすい。令和6年度の買い物支援講座では、当事者と直接接することでポジティブな印象となった。当事者の協力を得て啓発を行う。	・認知症になんでも支えられるだけでなく、希望を持ち生きる「新しい認知症観」を住民が理解する。 ・認知症の人や高齢者の困りごとを自分事に引き寄せ、助け合える地域となる。	広めよう! 新しい認知症観	・認知症理解促進のため、勉強会を開催する。 ・認知症当事者の協力を得て認知症啓発活動を行う。	◎ 認知症	4月	・コミュニティ・センターへ出前講座のアプローチ	10月	・人生会議出前講座開催 ・地域行事での認知症啓発活動	
	・松っ子まつりでのオレンジサポートー認知度調査は、「オレンジサポートーを知っている」という回答が令和5年度21%→令和6年度52%と増加、朝霧小学校ではオレンジリングレンジャーが誕生、認知症の理解と普及啓発が子どもの発信で行われ、地域住民の認知症理解を進める大きな力となる。	・子どもが認知症を学ぶことで地域内の子どもや保護者の認知症理解が進む。 ・住民主体で、住民が思い描く、認知症の人にやさしいまちを形作ることが出来る。		・小学校と連携した認知症啓発活動を継続する。 ・若い世代への啓発方法をキャラバンメイト・シルバーサポーターとともに考える。	生活支援体制整備	5月	・小学校へのオレンジサポートー養成講座開催のアプローチ ・キャラバンメイト・シルバーサポーター座談会	11月	・小学校でのオレンジサポートー養成講座	
	・民生委員・児童委員と介護支援専門員の交流会で、個人情報の取り扱いが連携を難しくしていることがわかった。双方から顔の見える関係をつくっていくためにも今後も交流会を継続していくという意見が多かった。	・民生委員・児童委員と介護支援専門員が気軽に連絡し合える関係となる。		・民生委員・児童委員と介護支援専門員が互いに直接連絡を取りあえるよう継続して交流会を開催する。	包括的継続的	6月	・小学校でのオレンジサポートー養成講座 ・「ケアマネ交流会」開催	12月	・キャラバンメイト・シルバーサポーター座談会 ・民生委員・児童委員と介護支援専門員の交流会 ・「ケアマネ交流会」開催	
	・3か月に1回、介護支援専門員交流会を行い、介護支援専門員の横のつながりが出来、悩みを共有し、サポート出来るようになってきた。	・居宅介護支援事業所どうしで気軽に相談できる関係や、互いに専門職として研鑽できる関係性を作る。		・介護支援専門員交流会を継続し、介護支援専門員を感じている地域課題を共有する機会をつくる。さらに、介護支援専門員が主体的に勉強会等の企画を行う。	生活支援体制整備	7月	・センター広報紙で啓発 ・居宅介護支援事業所への巡回	1月	・センター広報紙で啓発	
	・出前講座等による啓発活動や防犯協会への聞き取りで、住民が地域の詐欺被害防止の取り組みに関心があることがわかった。	・住民同士で困りごとを気軽に話し、助け合える地域となる。		・広報紙・出前講座での啓発活動を継続する。	権利擁護	8月	・キャラバンメイト・シルバーサポーター座談会	2月	・「ケアマネ交流会」開催	
	・人生会議等の出前講座から、高齢者の年齢や世帯状況に合わせた伝え方が必要であるとわかったが、どの程度需要があるか分かららない。	・住民が人生会議の考え方を理解し、気軽に話が出来る。		・アンケート等で人生会議についてのニーズ調査を行う。 ・出前講座を活用し、人生会議の考え方を啓発する。	医療介護連携	9月	・「ケアマネ交流会」開催	3月	・キャラバンメイト・シルバーサポーター座談会	
対象	問題（変えるべき現状）きっかけ、裏付け	目標（目指すべき理想）解決するところなる	プロジェクト名	課題（現実と理想のギャップを埋める）やること	当たはまる事業主となる事業に◎	年間での予定（ざっくりしたものでOK、変更あってもOK）				
明舞センター居住エリア	・高齢化率は松が丘2丁目が44.5%、松が丘4丁目が46.3%である。（令和6年12月現在） ・朝霧中学校区のセンター地区対応件数のうち、認知症に関する相談が66.5%であった。 ・集合住宅で認知症や地域とのつながりがない世帯で、生活の困りごとが深刻化してからセンターに相談が入っている。 ・住民の買い物・生活エリアの商店やスーパー、銀行等からセンターに相談が入る。それぞれが抱える問題を把握し、共通の地域課題の解決に向けてネットワークを構築する必要がある。	・住民の生活エリアにある関係機関のネットワークが構築され、困りごとがあるときは早期に相談することができる、安心・安全で住みやすい地域となる。	明舞ブロックじごとくつながる	・明舞センターエリアの社会資源を調査する。 ・キーパーソンとの関係づくりを行う。 ・地域課題のヒアリングを行う。	認知症 総合相談 医療介護連携 包括的継続的 一般介護予防 地域ケア会議 権利擁護 生活支援体制整備	4月 5月 6月 7月 8月 9月	・調査先のリストアップ ・聞き取り内容を決める ・調査先を訪問	10月 11月 12月 1月 2月 3月	・ヒアリング内容をまとめる ・調査先へのフィードバック	

大蔵中学校区 地域支援計画書（事業計画書）

対象	問題（変えるべき現状）きっかけ、裏付け②(どんな情報を根拠にしてい	目標（目指すべき理想）解決するところなる、なってほしい③	プロジェクト名	課題（現実と理想のギャップを埋める）やること① ④	当てはまる事業主となる事業に◎	年間での予定（ざっくりしたものでOK、変更があってもOK）						
大蔵中学校区	・住民の認知症予防への関心は高いが、住民自身が認知症の方をサポートすることについては心理的な負担が大きい。	・住民に認知症の理解が広まり、認知症になっても、地域の見守りやサポートで、その人らしく住み慣れた地域で暮らし続けることができる。	認知症を地域で支えるプロジェクト	・認知症理解啓発の取組みを考えている地域、団体にオレンジサポートー養成講座、認知症学習会の開催、幅広い世代が参加できるように働きかける。 ・認知症理解促進のため、勉強会を継続、認知症当事者の協力を得て学習会・認知症啓発活動を行う。 ・キャラバンメイト、シルバーサポーターの座談会を定期的に行うことで、主体的な活動につなげる。	◎ 認知症 生活支援体制整備 総合相談 包括的継続的	4月 5月 6月 7月 8月 9月	・自治会、サロン等への出前講座、オレンジサポートー養成講座開催のアプローチ ・小学校へのオレンジサポートー養成講座開催のアプローチ ・キャラバンメイト・シルバーサポーター座談会 ・小学校でのオレンジサポートー養成講座開催 ・キャラバンメイト・シルバーサポーター座談会 ・キャラバンメイト・シルバーサポーター座談会 ・随时 オレンジサポートー養成講座・認知症学習会開催する。	10月 11月 12月 1月 2月 3月	・地域行事での認知症啓発活動 ・キャラバンメイト・シルバーサポーター座談会 ・キャラバンメイト・シルバーサポーター座談会 ・キャラバンメイト・シルバーサポーター座談会 ・随时 オレンジサポートー養成講座・認知症学習会開催する。			
	・住民が認知症当事者の声を聞く機会がなく、わが事としてとらえづらい。											
	・オレンジサポートー養成講座、認知症啓発活動についてセンターが主導的となっており、キャラバンメイト、シルバーサポーターの主体的な活動につながるよう支援継続の必要性を感じた。											

対象	問題（変えるべき現状）きっかけ、裏付け	目標（目指すべき理想）解決するところなる	プロジェクト名	課題（現実と理想のギャップを埋める）やること	当てはまる事業主となる事業に◎	年間での予定（ざっくりしたものでOK、変更あってもOK）						
大蔵中学校区	・生活課題抽出アンケートでは、アンケート結果と住民が考えた地域の課題に相違があった。住民、専門職の目線で地域課題について検討を行い、取組への移行を目指している。	・生活課題抽出アンケート結果をもとに住民、おおくらまちなかゾーン会議の場で地域にとってメリットのある取組、働きかけを行うことができる。	地域と専門職をつなぐプロジェクト	・おおくらまちなかゾーン協議会にて、生活課題抽出アンケートから抽出された課題への取組を検討、実施する。	◎ 生活支援体制整備 総合相談 包括的継続的	4月 5月 6月 7月 8月 9月	・まちなかゾーン会議開催 ・まちなかゾーン会議開催 ・まちなかゾーン会議開催 ・まちなかゾーン会議開催 ・まちなかゾーン会議開催	10月 11月 12月 1月 2月 3月	・まちなかゾーン会議開催 ・まちなかゾーン会議開催 ・まちなかゾーン会議開催 ・まちなかゾーン会議開催 ・まちなかゾーン会議開催			

大蔵中学校区 地域支援計画書（事業計画書）

対象	問題（変えるべき現状）きっかけ、裏付け	目標（目指すべき理想）解決するところなる	プロジェクト名	課題（現実と理想のギャップを埋める）やること	当てはまる事業 主となる事業に◎	年間での予定（ざっくりしたものでOK、変更あってもOK）					
大 蔵 中 学 校 区	・民生児童委員や介護支援専門員双方から連絡先が分からないとセンターに連絡が入っており、民生児童委員と介護支援専門員の交流会を通じて双方の連絡先を交換することに	・民生児童委員と介護支援専門員が直接連絡を取り合うことができると共に困りごと、認知症が早期に相談でき発見、解決につながる。	みんなで見守りプロジェクト	・民生児童委員と介護支援専門員の定期的な交流会・勉強会を実施、連絡先情報シートの活用状況の検証を行う。 ・地域総合支援センターと居宅介護支援事業所、居宅介護支援事業所どうしの交流・勉強会を行い、地域課題を把握する。 ・自治会、団体等への広報・啓発活動の場を持つことができるようになり、自治会、団体等へ働きかけを行うとともに、センター内で連携し、広報・啓発の機会を増やす。	◎ 権利擁護 認知症 総合相談	4月 5月 6月 7月 8月 9月	地域支援課と協働し、サロンや住民が集まる場で消費者被害・詐欺被害予防啓発を隨時行う。 居宅介護支援事業所への巡回「ケアマネ交流会」開催 意見交換、勉強会等の内容を決定する。 居宅介護支援事業所への巡回 センター広報紙で啓発 「ケアマネ交流会」開催	10月 11月 12月 1月 2月 3月	警察と協働して出前講座開催(大蔵コミセン) 民生児童委員と介護支援専門員の交流会 「ケアマネ交流会」開催 虐待防止勉強会開催(CM交流会等にて) ・センター広報紙で啓発 「ケアマネ交流会」開催 ・随時 消費者被害・詐欺被害出前講座		
	・虐待の相談はほぼ介護支援専門員からの連絡である。地域住民の見守りの目を増やしていくことができるよう地域住民向けに虐待の啓発活動を行う。 ・講座等への参加者は消費者被害、特殊詐欺に対して当事者意識が高い。	・虐待防止について、未然に防ぐ為、住民、専門職が虐待に対する知識だけでなく、住民と専門職が日頃からつながる。 ・消費者被害等について、講座等に参加していない市民の意識を高め、消費者被害等を未然に防止する。									

錦城中学校区 地域支援計画書（事業計画書）

対象	問題（変えるべき現状）きっかけ、裏付け②(どんな情報を根拠にしてい るか)	目標（目指すべき理想）解決するところなる、なってほしい③	プロジェクト名	課題（現実と理想のギャップを埋める）やること① ④	当てはまる事業主となる事業に◎	年間での予定（ざっくりしたものでOK、変更があってもOK）				
錦 城 校 区 全 体	<p>・令和6年度に開催した「認知症について何かできない会」では、参加者それぞれが持つ知識や経験等の情報交換を通じて、「学びにつながった」といった感想が多く、それぞれの参加目的に応じて各々が何かできないかを考えたり感じたりする機会となった。</p> <p>・参加者の多くは高齢者で、働く世代の参加者はセンターが呼びかけをした関係機関の専門職だった。</p>	<p>・地域において認知症の理解者が更に増える。</p> <p>・「認知症について何かできない会」に認知症について興味のある様々な世代の方が気軽に参加できる。</p>	何 認 か 知 で 症 き に な つ い い 会 て	<p>・認知症に関心のある個人や団体に参加の働きかけをする。</p>	◎ 認知症 生活支援体制整備	4月	25～30日 会場予約	10月	認知症について何かできな い会開催	
						5月		11月		
						6月		12月		
						7月		1月		
						8月		2月		
						9月		3月		

対象	問題（変えるべき現状）きっかけ、裏付け	目標（目指すべき理想）解決するところなる	プロジェクト名	課題（現実と理想のギャップを埋める）やること	当てはまる事業主となる事業に◎	年間での予定（ざっくりしたものでOK、変更あってもOK）				
錦 城 校 区 全 体	<p>外出先で救急搬送され、自分の名前や緊急時の連絡先などを消防等に示すことが出来ず、搬送先がなかなか決まらず、速やかな治療に繋がらなかった事例があった。</p>	<p>外出先で病気や交通事故など万が一のことがあった際に、自分の名前や緊急時の連絡先などを消防等に示すことが出来、必要な治療等を速やかに受けることが出来る。</p>	備 え よう 緊 急 時 普 ロ ジ エ ク ト	<p>まちなかゾーン会議で作成した氏名や緊急時の連絡先、持病等の情報を記載した「緊急連絡先カード」を高齢者をはじめ多くの地域住民が活用し、万が一に備えることが出来る。</p>	地域ケア会議 生活支援体制整備 包括的継続的 認知症 医療介護連携	4月	いきいきうしん等で周知	10月	設置できた機関等を確認 新たな設置依頼先のリスト化	
						5月	センターの窓口等に設置	11月		
						6月	いきいき教室で配布 設置依頼先のリスト化 機関・団体等に順次依頼	12月	いきいき教室で配布	
						7月	いきいき教室で配布	1月	設置先（機関、団体等）を 確認し、配布数を集計	
						8月	夏まつりで配布、周知	2月	いきいき教室で配布	
						9月	きんきぬ交流会（年5回）で 配布・周知		2026年度の設置依頼先等を 検討	

対象	問題（変えるべき現状）きっかけ、裏付け	目標（目指すべき理想）解決するところなる	プロジェクト名	課題（現実と理想のギャップを埋める）やること	当てはまる事業主となる事業に◎	年間での予定（ざっくりしたものでOK、変更あってもOK）				
錦 城 校 区 全 体	<p>・民生委員・児童委員とあまり連携したことがない居宅介護支援事業所がある。</p> <p>・また、互いに連携した経験のない民生委員・児童委員、ケアマネジャーがいる。</p>	<p>・民生委員・児童委員とケアマネジャーが必要なタイミングで必要な情報をお互いに提供することで、住民の緊急時の備えが進む。</p>	普 支 援 者 エ 同 ク 士 ト の 繫 が り	<p>・民生委員・児童委員、ケアマネジャーがお互いの役割を理解する。</p> <p>・民生委員・児童委員とケアマネジャーがそれぞれの連携が必要なタイミングを知る。</p> <p>・救急れんらくばんの有効活用。</p>	◎ 包括的継続的	4月	交流会の部屋の確保	10月	民生委員・児童委員とケアマネジャーの交流会	
						5月	第1回民生委員・児童委員との打ち合わせ	11月	交流会の記録等をまとめる	
						6月		12月	参加者にまとめを報告する。	
						7月		1月		
						8月	第2回民生委員・児童委員との打ち合わせ	2月		
						9月	案内配布	3月		

錦城中学校区 地域支援計画書（事業計画書）

対象	問題（変えるべき現状）きっかけ、裏付け	目標（目指すべき理想）解決するところなる	プロジェクト名	課題（現実と理想のギャップを埋める）やること	当てはまる事業主となる事業に◎	年間での予定（ざっくりしたものでOK、変更があってもOK）					
セ ン タ ー 全 域	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度開催したキャラバンメイトミーティングに参加者の中にセンター圏域に居住・勤務するキャラバンメイトが増える。 ・オレンジサポーター養成講座について、キャラバンメイトと一緒に企業等にアプローチし開催できる。 ・また、オレンジサポーター養成講座のアプローチ先として、企業や医療機関、学校、住民など多岐にわたることがわかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・センター圏域に居住・勤務するキャラバンメイト候補者に、キャラバンメイト養成講座について周知し、日程がわかり次第案内する。 ・キャラバンメイトミーティングを年2回開催する。 ・企業や介護・医療関係機関等を対象にオレンジサポーター養成講座を開催する。 	つながりの輪を広げよう	<p>◎ 認知症</p> <p>4月 案内送付</p> <p>5月</p> <p>6月 6/25 R7年度第1回キャラバンメイトミーティング開催(アプローチ先の選定をする)</p> <p>6/13 オレンジサポーター養成講座(衣川コミセン)</p> <p>7月 7/17 オレンジサポーター養成講座(すこやかサロン)</p> <p>8月</p> <p>9月</p>	<p>10月 案内送付</p> <p>11月</p> <p>12月 R7年度第2回キャラバンメイトミーティング開催</p> <p>1月</p> <p>2月</p> <p>3月</p>						

衣川中学校区 地域支援計画書（事業計画書）

対象	問題（変えるべき現状）きっかけ、裏付け②(どんな情報を根拠にしているか)	目標（目指すべき理想）解決するところなる、なってほしい③	プロジェクト名	課題（現実と理想のギャップを埋める）やること④	当てはまる事業主となる事業に○	年間での予定（ざっくりしたものOK、変更あってもOK）						
衣 川 中 学 校 区	昨年度の民生委員・児童委員と介護支援専門員の交流会において、民生委員・児童委員からは「困り事や意見を出すことで役割の理解が進んだ。情報の共有が大事だ。」ケアマネジャーからは「民生委員・児童委員さんとお会いする度に話やすい空気になるので、定期的にこういった場が必要だ。」との声を得られた。また、「独居の方の場合は民生委員との連携を認識しているが、2人以上の高齢者世帯の場合は台帳等もなく連携していない現状だ。連携に向けてルールやマニュアルがあるとよいのではないか。」といった意見も得られた。	中学校区全域で「高齢者等の地域自立生活」に向けて民生委員・児童委員と介護支援専門員が手を携えられる。	繫衣 が川 り版 ブ支 口援 ジ者 エク士 トの	中学校区全域で民生委員・児童委員と介護支援専門員との交流会を継続して実施する。	◎ 包括的継続的	4月	民生委員・児童委員協議会と打合せ	10月				
						5月		11月				
						6月	民生委員・児童委員とケアマネ	12月				
						7月	ジャーの交流会の実施					
									1月			
						8月	交流会のアンケート集計報告		2月			
						9月			3月			
対象	問題（変えるべき現状）きっかけ、裏付け②(どんな情報を根拠にしているか)	目標（目指すべき理想）解決するところなる、なってほしい③	プロジェクト名	課題（現実と理想のギャップを埋める）やること④	当てはまる事業主となる事業に○	年間での予定（ざっくりしたものOK、変更あってもOK）						
衣 川 中 学 校 区	まちなかゾーン会議において、高齢者に加え、障がいのある方は情報を得にくいのではないかとの意見があった。すこやかサロンが情報提供の場としてあるが、参加者の多くは同じ顔ぶれであり、新たな参加はほとんどない。	・高齢者の方だけでなく、情報が届きにくい障がいのある方へ情報が行き渡る。 ・チラシを手に取り興味を持ってもらい、すこやかサロンに新たな参加者が増える。	育み ブ安 トロ心 ジ感 エク	・障がいのある方へ、情報提供先と提供方法をまちなかゾーン会議内で協議する。 ・周知用のチラシを手に取って記載情報を見てもらえるよう工夫をし配布する。	◎ 一般介護予防 生活支援体制整備 権利擁護	4月	すこやかサロンの実施	10月	すこやかサロンの実施			
						5月	すこやかサロンの実施	11月	すこやかサロンの実施	まちなかゾーン会議①		
						6月	すこやかサロンの実施	12月	すこやかサロンの実施	まちなかゾーン会議③		
						7月	すこやかサロンの実施	1月	すこやかサロンの実施	まちなかゾーン会議②		
						8月	まちなかゾーン会議②	2月	すこやかサロンの実施	まちなかゾーン会議④		
						9月	すこやかサロンの実施	3月	すこやかサロンの実施			
対象	問題（変えるべき現状）きっかけ、裏付け	目標（目指すべき理想）解決するところなる	プロジェクト名	課題（現実と理想のギャップを埋める）やること	当てはまる事業主となる事業に○	年間での予定（ざっくりしたものOK、変更あってもOK）						
衣 川 中 学 校 区	・センターの役割について説明した後、どんな相談を受けてくれるのか今まで分からなかったという声があった。 ・コロナ以前に比べて活動参加人数が減少し、住民同士の関りが少なくなつたので、活動に参加していない人のことは分からないと聞いた。また、センターで把握している消費者被害の事例を用いて啓発を行ったが、「自分は大丈夫」と我が事としてあまり捉えていない方もいるように感じ、事例を通して引き続き啓発していく必要があると感じた。高年クラブやサロンからも継続して説明をしてほしいとの依頼があった。	・困りごとを抱える住民が、まちづくり協議会やサロン等で相談をした際に総合支援センターを紹介できる。 ・住民にとって情報共有の場や相談できる場となる。また、関わっている方々から総合支援センターを紹介できる。	プロ 気 口 軽 じ に エ 相 ク 談 ト	・引き続きセンターチラシを用いて役割を説明する。 ・センターに寄せられた相談等をまちなかゾーン会議等の場で紹介する。	◎ 総合相談 権利擁護 生活支援体制整備	4月		10月				
						5月	第1回まちなかゾーン会議	11月	第3回まちなかゾーン会議			
						6月		12月				
						7月						
						8月	第2回まちなかゾーン会議	1月				
						9月		2月	第4回まちなかゾーン会議			
								3月				
対象	問題（変えるべき現状）きっかけ、裏付け	目標（目指すべき理想）解決するところなる	プロジェクト名	課題（現実と理想のギャップを埋める）やること	当てはまる事業主となる事業に○	年間での予定（ざっくりしたものOK、変更あってもOK）						
セン タ ー 全 域	・昨年度開催したキャラバンメイトミーティングにて参加者の中にセンター圏域に居住・勤務するキャラバンメイトは数人のみであった。 ・また、オレンジサポートー養成講座のアプローチ先として、企業や医療機関、学校、住民など多岐にわたることがわかった。	・センター圏域に居住・勤務するキャラバンメイトが増える。 ・オレンジサポートー養成講座について、キャラバンメイトと一緒に企業等にアプローチし開催できる。 ・オレンジサポートー養成講座を前年度の回数以上に開催できる。	つな が ブリ ロの ジ輪 エク ト よう	・センター圏域に居住・勤務するキャラバンメイト候補者に、キャラバンメイト養成講座について周知し、日程がわかり次第案内する。 ・キャラバンメイトミーティングを年2回開催する。 ・企業や介護・医療関係機関等を対象にオレンジサポートー養成講座を開催する。	◎ 認知症	4月	案内送付	10月	案内送付			
						5月		11月				
						6月	6/25 R7年度第1回キャラバ ンメイトミーティング開催(ア プローチ先の選定をする)	12月	R7年度第2回キャラバンメイト ミーティング開催			
						7月	6/13 オレンジサポートー養 成講座(衣川コミセン)					
						8月	7/17 オレンジサポートー養 成講座(すこやかサロン)	1月				
						9月		2月				
								3月				

野々池中学校区 地域支援計画書（事業計画書）

対象	問題（変えるべき現状）きっかけ、裏付け②(どんな情報を根拠にしているか)	目標（目指すべき理想）解決するところなる、なってほしい③	プロジェクト名	課題（現実と理想のギャップを埋める）やること① ④	当てはまる事業主となる事業に◎	年間での予定（ざっくりしたものでOK、変更があってもOK）			
野々池	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症と分かっていても、相談するタイミングや判断に迷う。 ・世代に関係なく地域に住む住民が、認知症、介護等に関心をもつことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生およびその保護者世代に対し認知症に対する理解が進む。 ・地域住民に対して認知症への理解が進み、専門機関と連携を取りながら、認知症高齢者も地域住民も自分らしく生活ができる。 	支えよう 認知症	<ul style="list-style-type: none"> ・若い世代とともに地域活動を通して取り組みを一緒に検討していく。 ・小学校、中学校に対する取り組みについては繋がりを持つことができたが、どう継続できるかが問題。引き続き時間をかけて取り組みを続けていく必要がある。 	◎ 医療介護連携 権利擁護 包括的継続的 認知症 生活支援体制整備 総合相談 一般介護予防	4月	・鳥羽小学校、まちづくり協議会へアプローチ	10月	
						5月		11月	
						6月	・野々池中学校オレンジサポート養成講座	12月	
						7月		1月	
						8月		2月	
						9月		3月	

対象	問題（変えるべき現状）きっかけ、裏付け	目標（目指すべき理想）解決するところなる	プロジェクト名	課題（現実と理想のギャップを埋める）やること	当てはまる事業主となる事業に◎	年間での予定（ざっくりしたものでOK、変更あってもOK）			
野々池	<ul style="list-style-type: none"> ・人生会議はテーマが漠然としており、身近な問題として捉えにくい。 ・若い世代から人生会議について考える機会をもつことが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・専門職と地域住民が一緒になって人生会議を実施できるように取り組める。 ・老若男女問わず人生会議ツールの活用ができるようになり、自分らしく生活ができる。 	やってみよう 人生会議	<ul style="list-style-type: none"> ・ゾーン会議にて引き続き、数年計画で地域住民に人生会議が浸透するように、専門職、地域活動者とともに取り組みを継続する。 	◎ 医療介護連携 生活支援体制整備 権利擁護 包括的継続的 一般介護予防 認知症 地域ケア会議	4月	第一回ゾーン会議	10月	
						5月		11月	第三回ゾーン会議
						6月		12月	
						7月	第二回ゾーン会議	1月	
						8月	耳より講座・交流会	2月	第四回ゾーン会議
						9月		3月	

対象	問題（変えるべき現状）きっかけ、裏付け	目標（目指すべき理想）解決するところなる	プロジェクト名	課題（現実と理想のギャップを埋める）やること	当てはまる事業主となる事業に◎	年間での予定（ざっくりしたものでOK、変更あってもOK）			
野々池	<ul style="list-style-type: none"> ・地域総合支援センター設立後、地域住民にとって相談窓口がわかりにくくなったという声がある。 ・地域の繋がりが必要であるが、担い手不足、居場所不足等がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域総合支援センターが困りごとの相談窓口であることを知り、誰もが安心して生活ができる。 ・地域総合支援センターと地域住民とで地域課題に対する取り組みが検討できる。 	繋がろう 野々池	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートを実施し地域の課題整理を行い、地域住民と取り組みを検討する場を設ける。 ・地域活動者、専門機関とも協働し、既存のサテライト、健康測定会の開催方法を検討していく。 ・「生活の困りごとについての相談は、地域総合支援センターへ」という認識が地域住民に周知できる。 ・ケースが深刻化しないよう、早期相談に繋げる。 	◎ 医療介護連携 総合相談 権利擁護 包括的継続的 生活支援体制整備 一般介護予防 認知症	4月	アンケート実施	10月	地域住民とアンケート結果共有（次年度取り組み検討）
						5月		11月	
						6月		12月	
						7月		1月	
						8月		2月	
						9月		3月	

望海中学校区 地域支援計画書（事業計画書）

対象	問題（変えるべき現状）きっかけ、裏付け②(どんな情報を根拠にしているか)	目標（目指すべき理想）解決するところなる、なってほしい③	プロジェクト名	課題（現実と理想のギャップを埋める）やること① ④	当てはまる事業主となる事業に○	年間での予定（ざっくりしたものでOK、変更あってもOK）					
望海	8050問題について個別相談が多いことをまちなかゾーン会議で共有したが、住民が感じる地域課題は少子化・空き家問題に関する課題への関心が高かった。	・継続的に地域課題を検討する場がある。	繋がろう 望海	・地域課題を検討する場としてのゾーン会議のありかたをメンバーと考える。	◎ 医療介護連携 ◎ 権利擁護 ◎ 包括的継続的認知症 ◎ 生活支援体制整備 ◎ 総合相談 一般介護予防	4月		10月			
	健康教室について、まちなかゾーン会議のメンバーの専門職が講師として参加する機会が少なかった。また住民は他の役割が重複している方も多く、調整役等を担うのは難しい。	・地域で活躍できる人が増えて、居場所や活躍の場が増える。 ・住民が地域の資源の情報を把握でき、それを生活に活かすことができる。		・健康教室のあり方を考える。 ・地域の専門職と住民をつなぐ。		5月	まちなかゾーン会議定例会	11月			
						6月		12月	まちなかゾーン会議定例会		
						7月			1月		
						8月	まちなかゾーン会議定例会	2月			
						9月		3月	まちなかゾーン会議定例会		
										※毎月：まちかど健康教室	

対象	問題（変えるべき現状）きっかけ、裏付け	目標（目指すべき理想）解決するところなる	プロジェクト名	課題（現実と理想のギャップを埋める）やること	当てはまる事業主となる事業に○	年間での予定（ざっくりしたものでOK、変更あってもOK）					
望海	(専門職) 人生会議は大切な話題だが、親族に対して話しにくい内容を含んでいたり、タイミングが難しい。 (住民) 健康教室や地域の講座等に参加する住民は人生会議について情報を得ることができるが、参加できない住民は人生会議について触れる機会が少ない。 キャラバンメイト同士の情報交換の機会がなかった。	・住民が自分事として人生会議をとらえることができ、ツールを活用して人生会議について考えるきっかけができる。 ・住民が認知症の正しい知識を得て、認知症になってしまって自分の望む暮らしができるとともに、認知症に優しい地域になる。	備えよう 望海	・住民及び専門職に人生会議の周知を行なう。 ・オレンジサポートー養成講座の開催や、認知症に関する情報発信をキャラバンメイトと共に地域で行なう。	◎ 医療介護連携 ◎ 生活支援体制整備 ◎ 権利擁護 ◎ 包括的継続的一般介護予防 ◎ 認知症 地域ケア会議	4月		10月	医療巡回		
						5月		11月	民生委員・ケアマネージャー懇談会		
						6月		12月			
						7月		1月			
						8月		2月	ケアマネージャー交流会		
						9月	居宅巡回	3月			

対象	問題（変えるべき現状）きっかけ、裏付け	目標（目指すべき理想）解決するところなる	プロジェクト名	課題（現実と理想のギャップを埋める）やること	当てはまる事業主となる事業に○	年間での予定（ざっくりしたものでOK、変更あってもOK）					
望海	センターの周知ツールとしてカレンダーを配布し、一定の効果が見られたが、個別ケースや地域課題等から連携の必要性があるところ（例：集合住宅、住民組織）へは、継続した周知が必要。 広報誌はA4サイズのため文字が小さいなどの課題が残った。	・福祉に関する困りごとなどあったときに相談先が分かる。 ・住民がセンターの役割や地域活動について知ることができる。	知らせよう 望海	・福祉の相談先としての周知を継続する。 ・広報誌のサイズや伝える内容等を検討することで内容の充実を図る。	◎ 医療介護連携 ◎ 総合相談 ◎ 権利擁護 ◎ 包括的継続的生活支援体制整備 ◎ 一般介護予防 ◎ 認知症	4月		10月	センター内で打ち合わせ		
						5月		11月			
						6月		12月			
						7月		1月			
						8月		2月			
						9月	3月				

江井島中学校区 地域支援計画書（事業計画書）

対象	問題（変えるべき現状）きっかけ、裏付け ②(どんな情報を根拠にしているか)	目標（目指すべき理想）解決するところなる、なってほしい③	プロジェクト名	課題（現実と理想のギャップを埋める）やること① ④	当てはまる事業主となる事業に◎	年間での予定（ざっくりしたものでOK、変更があってもOK）				
江 井 島 全 域	今後もSOS声かけ訓練を行った方がいいかというアンケートの質問に対し、約9割の方の賛同が得られた。	・認知症の理解や正しい対応の仕方が周知され、必要な方への見守りが行えることにより、認知症になんでも住みなれた地域で生活できる。	住 暮 み 慣 ら し 続 け よ う で	認知症勉強会、SOS声掛け訓練を実施する。 より多くの方に認知症の理解が普及できるよう、昨年度聞き取りを行った福祉事業所や企業等にも参加を促す。	◎ 医療介護連携 権利擁護 包括的継続的一般介護予防 認知症 地域ケア会議 総合相談	4月			10月	認知症勉強会の開催
	認知症高齢者役を地域住民が担う際、顔見知り同士で訓練をする場合はやりにくさがあった等の意見があった為、組み合わせの配慮が必要である事がわかった。	・オレンジサポートやシルバーサポーター等の養成講座を受講者が増加し、サロンで認知症の方への対応ができるサポートが増え、地域の様々な活動の担い手として参加する。				5月			11月	SOS声かけ訓練の実施
	また、より多くの方に認知症の理解を普及する為には、地域資源である福祉事業所や民間企業の協力も不可欠であることがわかった。					6月			12月	
	参加者の多くは、自身の認知症予防や家族が認知症になった場合の対応の仕方を知りたいという理由で参加された。					7月			1月	
	センターが目指す支援が必要な方へ声掛けや見守り等の意識を根付かせるためには継続した認知症理解の啓発が必要であると感じた。					8月			2月	
						9月	実施場所の検討 具体的な内容の検討 等		3月	SOS声かけ訓練の振り返り

対象	問題（変えるべき現状）きっかけ、裏付け	目標（目指すべき理想）解決するところなる	プロジェクト名	課題（現実と理想のギャップを埋める）やること	当てはまる事業主となる事業に◎	年間での予定（ざっくりしたものでOK、変更あってもOK）				
江 井 島 全 域	介護保険や人生会議等講話の参加者から、「介護保険を利用する場合、どういう状態になったら相談したらいいのかがわからない。」という声が多く上がったことから、事例とともに説明する必要性を感じた。	民間企業、福祉サービス事業所から、福祉に関する相談がセンターに入るようになり、早期発見・早期対応ができるようになる。	み ん 支 な 援 で の つ わ く ろ う	昨年度の民間企業14か所、福祉サービス事業所6か所に対しておこなった聞き取り調査の結果を集約して分析する。 分析した結果をもとに、民間企業、福祉サービス事業所へ結果をお返しする。 昨年度の聞き取りから、多くの企業が「地域活動に興味がある」と回答しており、今年度のゾーンの取り組みであるSOS訓練の案内を行っていく。	◎ 医療介護連携 総合相談 権利擁護 包括的継続的一般介護予防 認知症 地域ケア会議	4月			10月	サービス事業所へ地域課題の共有を図る
	昨年度調査した民間企業からは、おおくば総合支援センターへの相談はなかった。					5月			11月	
	調査したうちの80%以上の福祉サービス事業所は地域貢献に関心があるが行えていない。					6月			12月	
						7月	民間企業・サービス事業所への聞き取り調査の結果を分析		1月	
						8月			2月	
						9月			3月	

大久保中学校区 地域支援計画書（事業計画書）

対象	問題（変えるべき現状）きっかけ、裏付け②(どんな情報を根拠にしている)	目標（目指すべき理想）解決するところなる、なってほしい③	プロジェクト名	課題（現実と理想のギャップを埋める）やること① ④	当てはまる事業主となる事業に◎	年間での予定（ざっくりしたものでOK、変更があってもOK）				
大 久 保 南 へ ゆ り の き 一	<p>・令和6年度の認知症に関わる警察からの相談が、大久保地区は全体で77件。うち、ゆりのき通でも21件となっており、昨年の件数と比較するとどちらも3倍近く増加していた。また、介護保険の申請に関する相談でも地区内で一番相談が多かった。</p> <p>・ゆりのき通では、駅周辺マンションが建設されて30年程経過する中で、親の介護や認知症などの課題を抱えている世帯も多く、重度化してからの相談が見受けられる。</p> <p>また、高齢者の1人暮らしも多い地区で、元気なうちはつながりを求めていない人もおり、認知症になっても普段の些細な変化の発見・見守りがしにくい。</p>	<p>・若い世代も多く、大きな企業やショッピングモールもある地域の為、マンション周辺を含めた企業や地域住民全体に認知症の正しい理解を広め、発見の目を増やしていく必要がある。</p> <p>・地域住民や企業へ相談窓口が広く周知される。</p>	地域まるごと認知症見守りプロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症の方の対応について学ぶ機会を作り、住民だけでなく駅前イオンやVIVRE、郵便局やコンビニ等にも働きかける。 ・地域活動に参加させていただくなかで、引き続きセンターの役割周知や啓発等行っていく。 ・見守りSOS声掛け訓練実施に向けた働きかけを大久保南小コミセンへ行う。 	<p>総合相談 認知症 生活支援体制整備</p>	4月 5月 6月	コミセンを訪問し課題の共有を行う。	10月	見守り声掛けSOS訓練実施	
							まちなかゾーン会議で取り組み計画の共有する。	11月	健康教室開催	
							協力者や協力機関を募る。	12月		
						7月 8月 9月		1月		
							VIVRE福祉イベント	2月		
								3月		

対象	問題（変えるべき現状）きっかけ、裏付け	目標（目指すべき理想）解決するところなる	プロジェクト名	課題（現実と理想のギャップを埋める）やること	当てはまる事業主となる事業に◎	年間での予定（ざっくりしたものでOK、変更あってもOK）				
谷 八 木 小 学 校 区	<p>・あかし保健所健康増進計画の策定するにあたり取ったアンケートより、メタボ該当者率が高い事や、糖尿病・動脈硬化等のリスクを抱えている人が多い。</p> <p>また、介護保険の相談件数も他の地区と比較して多い傾向にあり、定期的な受診に繋がっていない人が見受けられる。</p> <p>・相談対応をしている方から、交通の便が悪く定期受診しにくいという声もある。</p>	<p>・買い物や受診に行ける体づくりのため、身体を動かす機会や定期的に健康チェックを行う機会があることで健康意識が向上し、外出が継続出来る。</p>	いつもでも身体いきいきプロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・健康増進の機会を図るため、あかし保健所健康推進課等の機関と地域ごとの課題の共有を行う。 ・まちなかゾーン会議で検討を図りながら、アプローチが必要な地域に向けて体験型の健康教室を開催する。 	<p>一般介護予防 地域ケア会議 生活支援体制整備</p>	4月 5月 6月		10月	健康教室開催	
							まちなかゾーン会議	11月	まちなかゾーン会議	
								12月		
						7月 8月 9月	健康教室開催	1月		
							まちなかゾーン会議	2月	まちなかゾーン会議	
								3月		

高丘中学校区 地域支援計画書（事業計画書）

対象	問題（変えるべき現状）きっかけ、裏付け②(どんな情報を根拠しているか)	目標（目指すべき理想）解決するとこうなる、なってほしい③	プロジェクト名	課題（現実と理想のギャップを埋める）やること① ④	当てはまる事業主となる事業に◎	年間での予定（ざっくりしたものでOK、変更があってもOK）					
高 丘 西 小 学 校 区	・まちなかゾーン会議主催で小地域活動を実施してきたが、令和6年度に高丘地区でフレイルセンターが養成されたので、今後は高丘西小学校区のフレイルセンターが小地域活動を主体的に実施できるよう、後方支援していくことが必要。	・地域での小さなつながりから多世代交流や助け合いのネットワークへと広がっていく。	たのしくかつどうにっこりしようプロジェクト	・地域のキーパーソンやフレイルセンターと協働して、まちなかゾーン会議主催の小地域活動「おさんぽマーチ」を継続開催する。	◎ 地域ケア会議	4月			10月	・まちなかゾーン会議 2回目	
						5月			11月		
						6月	・まちなかゾーン会議 1回目		12月	・「おさんぽマーチ」開催	
						7月			1月		
						8月			2月	・まちなかゾーン会議 3回目	
						9月			3月		

対象	問題（変えるべき現状）きっかけ、裏付け	目標（目指すべき理想）解決するとこうなる	プロジェクト名	課題（現実と理想のギャップを埋める）やること	当てはまる事業主となる事業に◎	年間での予定（ざっくりしたものでOK、変更あってもOK）					
高 丘 中 学 校 区	・介護保険サービス利用者が、もしもの時に自分が望む医療や介護について、介護支援専門員としっかり話し合うことができない。 ・もしもの時の備えや人生会議について、集いの場に来られる住民は知ることができたが、来られない住民は知ることができない。	・もしもの時の備えや人生会議について、地域のキーパーソンや介護支援専門員の理解が進み、積極的に普及される。 ・集いの場に来られる人にも来られない人にも普及し、誰もが人生会議を自分事として考えることができている。	もしもの時の備え方～しゃきっとぴんぴん生きよう(ACP)～プロジェクト	・全職種が「もしものときの備えシート」の普及啓発を行う。 ・まちなかゾーン会議主催の健康教室「みちくさサロン」を6・7丁目集会所でも開催し、人生会議も含めた内容の講話を実施する。	◎ 医療介護連携一般介護予防権利擁護地域ケア会議	4月			10月		
						5月			11月		
						6月			12月		
						7月			1月	・「みちくさサロン」開催	
						8月			2月		
						9月	・「みちくさサロン」開催		3月		

対象	問題（変えるべき現状）きっかけ、裏付け	目標（目指すべき理想）解決するとこうなる、なってほしい③	プロジェクト名	課題（現実と理想のギャップを埋める）やること① ④	当てはまる事業主となる事業に◎	年間での予定（ざっくりしたものでOK、変更あってもOK）					
高 丘 中 学 校 区	・独居高齢者が多く詐欺被害が多発しているが、被害に遭った高齢者が「大ごとにしたくない」との理由から相談・通報をためらってしまう。 ・詐欺被害情報が地域で共有されず、同様の被害を生む可能性がある。	・詐欺にあった住民がすぐに相談・通報でき、詐欺被害情報が地域で即時共有される体制が構築されている。	だいじな物まもるためさあ皆でれんけいしなくそいやな詐欺プロジェクト	・サロン等で詐欺についての啓発を行うことで、被害に遭った住民がためらわずにすぐ相談・通報できる地域づくりを行う。 ・民生委員児童委員協議会や各校区まちづくり協議会等と問題を共有し、詐欺被害情報が地域ですぐに共有できる体制を構築する。	◎ 権利擁護総合相談	4月	・詐欺被害の情報収集（通年）		10月		
						5月	・詐欺被害の啓発の検討（通年）		11月	・サロン等で啓発活動を実施	
						6月	・民生委員児童委員定例会で詐欺被害情報を共有（随時）		12月		
						7月	・詐欺被害のあった地区のサロン等に啓発活動の実施を打診		1月	・サロン等で啓発活動を実施	
						8月	・サロン等で啓発活動を実施		2月		
						9月			3月		

大久保北中学校区 地域支援計画書（事業計画書）

対象	問題（変えるべき現状）きっかけ、裏付け	目標（目指すべき理想）解決するところ	プロジェクト名	課題（現実と理想のギャップを埋める）やること	当てはまる事業主となる事業に◎	年間での予定（ざっくりしたものでOK、変更あってもOK）				
大 久 保 ダ イ ヤ ハ イ ツ	<ul style="list-style-type: none"> 過去に集会所利用に関して公平性を求める声が上がった事もあり、集いの場再開に向けて自治会も住民も慎重に進めているところである。 お茶会運営を通して、住民の高齢化、自宅にこもりがちな住民、子どもの登下校のマンション内の見守り等、孤立を背景とする問題があることがわかった。 	<ul style="list-style-type: none"> サロンや体操などの集い場が立ち上がり、住民が介護予防に取り組むことができる。 センターや民生委員・児童委員が、身近な相談先として認知され、連携することができる。 住人同士で顔見知りの関係が増え、高齢者や子どもの見守りができる。 	キラリと光る 顔見知りのダイヤを磨いて	<ul style="list-style-type: none"> お茶会の中で、健康教室や講座などを開催し、センターの周知や介護保険についての説明を行う。 	◎ 一般介護予防 総合相談	4月		10月	介護保険講座	
						5月		11月		
						6月		12月		
						7月	健康教室	1月		
						8月		2月		
						9月		3月		

対象	問題（変えるべき現状）きっかけ、裏付け	目標（目指すべき理想）解決するところ	プロジェクト名	課題（現実と理想のギャップを埋める）やること	当てはまる事業主となる事業に◎	年間での予定（ざっくりしたものでOK、変更あってもOK）				
大 久 保 南 団 地	<ul style="list-style-type: none"> 令和7年2月現在、昨年度大久保南団地からあがってきた事例が18件あった。そのうち対応が必要な事例が12件だったが本人から相談されたものが少なかった。 要因は困窮、老々介護、認知症、障害、8050、虐待と多岐にわたっており、中には複合多問題となっている世帯もある。 	<ul style="list-style-type: none"> 団地の中でセンターが認知され、何らかの困難を抱えた住民が、自らセンターにSOSを出せる。 複合多問題に発展する前に、センターや民生委員・児童委員が問題を早期発見できる。 	団地だんだんステップアップ！	<ul style="list-style-type: none"> 集会所で行われているサロンや体操に訪問し、ニーズの発掘を行う。 集会所を利用して出張相談や、住民のニーズに応じた勉強会が開催できないか打診する。 新しい民生委員との信頼関係構築。 	◎ 権利擁護 総合相談	4月	地区担当で挨拶・民生児童委員にニーズ聞き取り	4月	ニーズ調査。	
						5月	県住で行われている体操やサロンに、地区担当が訪問	5月		
						6月	ニーズ調査	6月		
						7月	県住で行われている体操やサロンに、地区担当が訪問	4月	収集したニーズを整理し、住民の必要性に応じた出張相談や勉強会などを民生委員へ提案。	
						8月	ニーズ調査。民生委員・児童委員へ出張相談や勉強会などの開催を提案。	5月	来年度開催に向けて準備を行う。	
						9月		6月		

魚住東中学校区 地域支援計画書（事業計画書）

対象	問題（変えるべき現状）きっかけ、裏付け②(どんな情報を根拠にしてい るか)	目標（目指すべき理想）解決するこ うなる、なってほしい③	プロジェクト名	課題（現実と理想のギャップを埋 める）やること① ④	当てはまる事業 主となる事業に◎	年間での予定（ざっくりしたものでOK、変更があってもOK）				
新々田自治会	自治会長より、住民間のふれあい活動や世代間交流が希薄と話があり、住民同士のつながりの有無や、住民がどのような思いを持って生活しているのかが分からず。	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会長と民生児童委員がつながり、普段から相談し合える関係性にある。 ・住民自身が自治会内の状況を把握し、今後どのような地域にしたいのか将来像をイメージできる。 ・日ごろから相談し合える住民のネットワークがあり、必要時には自治会役員や民生児童委員、センターに繋がりやすくなる。 	新々田こんな地域にしたいなプロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・センターが自治会総会に出席、住民にセンターの役割を伝える。 ・住民の生活状況やニーズを聞き取るアンケート調査を実施する。 ・住民への報告会を開催し、アンケート結果を自治会役員や民生児童委員、住民と共有する。 	◎ 生活支援体制整備 総合相談 認知症	4月	自治会総会に出席する	10月	報告会開催	
						5月	住民向けアンケート作成	11月		
						6月	アンケート実施	12月		
						7月	アンケート回収・分析	1月		
						8月	自治会長に結果報告	2月		
						9月	報告会の呼びかけ	3月		

対象	問題（変えるべき現状）きっかけ、裏付け	目標（目指すべき理想）解決するこ うなる	プロジェクト名	課題（現実と理想のギャップを埋 める）やること	当てはまる事業 主となる事業に◎	年間での予定（ざっくりしたものでOK、変更あってもOK）				
魚住東中学校区	商店が多い地域特性を生かして、住民や店のつながりづくりを行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・馴染みの店と住民がつながり続け、地域で自然な見守りや日常生活の相談ができる。 ・地域の店に通う住民が増加し、地域が活性化する。 	人と店がつながるプロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民が通いそうな店をリストアップする。 ・住民に、馴染の店に通い続ける理由（原動力）を聞き取り、訪問する店舗を限定する。 ・店を訪問し、センターの役割、地域の見守りについて伝える。 ・見守り協力店を広報紙等で見える化し、地域住民の情報発信する。 	◎ 生活支援体制整備 認知症 一般介護予防 権利擁護 包括的継続的 総合相談	4月	店舗のリストアップ	10月	地域に情報発信する	
						5月	住民に通う店や理由を聞く	11月		
						6月		12月		
						7月	店舗を訪問する	1月		
						8月		2月		
						9月	広報紙を作成	3月		

魚住中学校区 地域支援計画書（事業計画書）

対象	問題（変えるべき現状）きっかけ、裏付け②(どんな情報を根拠にしているか)	目標（目指すべき理想）解決するところなる、なってほしい③	プロジェクト名	課題（現実と理想のギャップを埋める）やること① ④	当てはまる事業主となる事業に◎	年間での予定（ざっくりしたものでOK、変更があってもOK）						
清水小学校区（土山）	令和6年度、土山地区について住民へのヒアリングを行ない地区把握を試みた。その過程でセンターの地域アプローチが不十分であることが分かった。一方地域では、住民が気軽に集う場所があり、そこを拠点としてつながりが育まれていることが分かった。今後も住民同士のつながりを大切にして、地域の中で気軽に相談ができるような環境づくりが必要がある。	住民同士のつながりを広げながら、ニーズ把握に努め、地域のキーパーソンと連携しながら寄り添い支援ができるお互いさまのネットワーク体制ができる。	住民同士のつながりを広げ、お互いさまの土山を目指す	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとり暮らし台帳登録者の自宅を地図にマッピングし実態把握を進める。 ・民生児童委員の一斉訪問に同行 ・訪問時に聞き取り調査を行う ・土山地区内の活動、集いの場で聞き取り調査 ・聞き取った内容をもとにニーズ把握 	◎ 生活支援体制整備	4月	・一人暮らし台帳より、一人暮らしの方の把握	10月	・聞き取った内容を整理			
						5月	・質問項目の検討	11月	・聞き取り内容をもとにニーズ把握			
						6月	・民生児童委員に同行訪問依頼	12月				
						7月	・民生児童委員と同行訪問	1月	・ニーズ把握の結果をもとに、ネットワーク作りの具体策を検討			
						8月	・聞き取り調査	2月				
						9月		3月				

対象	問題（変えるべき現状）きっかけ、裏付け	目標（目指すべき理想）解決するところなる	プロジェクト名	課題（現実と理想のギャップを埋める）やること	当てはまる事業主となる事業に◎	年間での予定（ざっくりしたものでOK、変更あってもOK）						
錦浦小学校区	<p>隣接する西岡自治会、浜谷自治会が協働を進める中、各会長より地域行事の参加者が年々減少し地域のつながりが希薄になることが懸念され、継続が危ぶまれる地蔵盆等の伝統行事を活かした交流の取り組みを検討したいとの相談がある。</p> <p>また自治会のアンケートから「近所付き合いがしたいため良き交流を願う」という声があがる。</p> <p>行事参加者の減少は、これまで築き上げられた地縁関係や多世代交流の希薄化に拍車をかけ、住民同士の支え合い（福祉のまちづくり）に影響を及ぼすと考えらる。地域の声を大切にし、地域アプローチを試みる必要がある。</p>	<p>地元の地域行事を通して、自治会内や自治会を超えたネットワークを構築し、最小単位（町内）の地域コミュニティ推進が図られる。</p> <p>地域貢献に取り組む明石高専と協働することで若い力が地域に活かされ、取り組み内容が充実するとともに、地域が元気になることが期待できる。</p>	◎ 生活支援体制整備	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会長に聞き取りを行う（現状、歴史、今後の展望等） ・明石高専に自治会の思いを伝え、協働可能であるか提案 ・自治会と明石高専と一緒に伝統行事の把握、調査 ・近隣地区をつなげてネットワークを広げる 	◎ 生活支援体制整備	4月	・自治会長から聞き取り	10月	・調査内容見える化			
						5月	・明石高専に提案	11月	・評価、振り返り			
						6月	・自治会と明石高専とで話し合い。内容検討（プロジェクト立案）	12月				
						7月		1月				
						8月	・実態調査	2月	・次年度に向けた計画立案			
						9月		3月				

二見中学校区 地域支援計画書（事業計画書）

対象	問題（変えるべき現状）きっかけ、裏付け②(どんな情報を根拠にしているか)	目標（目指すべき理想）解決するところなる、なってほしい③	プロジェクト名	課題（現実と理想のギャップを埋める）やること① ④	当てはまる事業主となる事業に◎	年間での予定（ざっくりしたものでOK、変更あってもOK）				
二見中学校区	①認知症を患っている高齢者や要介護状態の高齢者を介護する者の負担が大きい。 ・権利擁護ケースでは、対象高齢者の約34%が認知症の確定診断を所有している。また対象高齢者の90%が介護保険サービスを利用しているにも関わらず、不適切な状態となっており、その要因が「家族の介護負担増大によるもの」が多数を占めていた。その背景として認知症の理解不足や、介護の仕方が分からぬなどの理由があった。	①認知症を患っている高齢者や要介護状態の高齢者を介護する者の負担が減少する。	早期に気付き相談しようプロジェクト	(1)相談件数が少ない集合住宅へのアプローチを行い、ACP、成年後見制度の利用促進や正確な制度情報に関する情報提供を行う。 ・健康測定会を兼ねた福祉相談会を実施し、地域住民のニーズを把握する。 (2)必要に応じて各地域のサロンや高年クラブ、自治会等へ出前講座を実施する。 ・講座内容に関わらず『もしもの時の備えシート』を配布し、住民自らが、早期からこれからのことを考え備えるきっかけ作りを行う。	◎ 医療介護連携	4月	(1)自治会長等と打ち合わせ	10月	(4)協力事業所などと打ち合わせ。（～12月）	
	②R4年度、R5年度は問題が重度化してから相談が入ることが多い傾向にあった。しかしR6年度は、重度化する前の段階での相談が増加している。今後は高齢者虐待の防止に向け、予防的な啓発を実施していく必要がある。	②意思決定が出来るうちから『自分で意思決定ができなくなったら時』に備えて検討することができる。		◎ 権利擁護	5月	(2)随時実施	11月			
	③認知症の正しい知識の普及（早期から相談する重要性について等） ・総合相談から、認知症の方に関する相談のうち、約5割が権利擁護に関する相談となっている。 ・年々認知症に係る支援対象者情報提供書の受理件数が増えているが、対象者のうち一人歩きが5～6割を占めており、R6年度は幻覚・妄想のケースが急増した。	③生活に困り事が生じた際、本人、家族、専門職、地域住民が早期に必要な機関へ相談することができる。		◎ 生活支援体制整備	6月	(3)2ヶ月に1回実施	12月			
	④小学校区毎のケース分布を確認したが、3小学校区でそれほど大幅な件数差はなかった。その為、アプローチは小学			◎ 一般介護予防		(4)事業所を巡回し、ニーズ調査及び場所の選定。（～9月）				
				◎ 包括的継続的						
				◎ 生活支援体制整備	7月		1月	(4)開催（～3月）		
				◎ 総合相談	8月		2月			
				◎ 包括的継続的	9月		3月	(4)事後評価		
				◎ 権利擁護						
				◎ 医療介護連携						
				◎ 生活支援体制整備						

二見中学校区 地域支援計画書（事業計画書）

対象	問題（変えるべき現状）きっかけ、裏付け	目標（目指すべき理想）解決するところなる	プロジェクト名	課題（現実と理想のギャップを埋める）やること	当てはまる事業主となる事業に◎	年間での予定（ざっくりしたものでOK、変更あってもOK）				
二 見 中 学 校 区	①男性介護者からの相談が増えている。 ・明石市社協主催のだるま会（男性介護者のかたり場）に参加している地域住民から「当事者や家族が集まる場所が近くに欲しい」との声があった。 ・男性相談者の相談内容が複雑化している。	近隣に相談相手や集まる場所があれば、地域住民は安心して生活することができる。 センターが医療機関、介護事業所、行政機関等と連携を強化できる。	ミックスマチナスカーフエリチナスプロジエクト	(1)立ち上げに向けた検討会の実施 会場、開催内容、運営方法等について協議・決定する。	総合相談 権利擁護 包括的継続的 地域ケア会議 医療介護連携 ◎認知症 ◎生活支援体制整備	4月 5月 6月 7月 8月 9月	プロジェクトの共有 第1回 センター内会議 第3回検討会の実施 会場、開催内容、活動名を決定 第2回 センター内会議 第4回検討会の実施 運営方法、周知方法について検討し、活動代表者を決定 第3回 センター内会議	10月 11月 12月 1月 2月 3月	第5回検討会の実施 最終打ち合わせ 第4回 センター内会議 居場所立ち上げの準備 地域住民への広報活動 プレオープン 終了後、振り返りを実施 定期開催 開始	
	②総合相談の内容が多岐にわたっている。 高齢者の1人歩きや認知症や障がい等の生きづらさを抱えた方の近隣トラブルや金銭管理等に関する相談が多い現状が持続している。その中には近隣に支援者がおらず、問題が重度化してから相談に至るケースが散見された。	地域資源が増え、地域活動の新たな担い手を発見・育成できる。		(2)必要に応じて協力者の追加募集を行う。						
	③認知症初期での相談数が少ない。 ・認知症の方の相談において、認知症初期と思われる相談（オレンジチェックシートや専門医受診の相談等）が全相談の1割しかなく、殆どが認知症症状が進行して生活に困り事が起こってからの相談となっている。	当事者、家族、関係者に横つながりができるれば、問題が重度化する前に早期発見できる。		(3)地域住民が居場所の重要性を理解し、活動や参加者に対する偏見がなくなるよう周知を行う。						